

WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA
CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTEC

Jms

OKAWO
Express

DIESEL AID

FUJITSUBO
EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会



WellVets
— Animal Welfare Group —

KDC
DENTAL CLINIC

GLOBAL
GURUZ CRYSTAL

本田鉄工株式会社

Quattrofire
タイヤカーテンショウ

RACING PROJECT
BANDOH

『表彰台が見えていただけに残念な結果に、7 位入賞で次戦に期待』



シリーズ名 : 2022 AUTOBACS SUPER GT シリーズ

大会名 : 2022 AUTOBACS SUPER GT Round5 FUJIMAKIGROUP SUZUKA GT
450KM RACE

SUPER GT Round.5 SUZUKA 決勝結果【7 位】

レース距離 : 1 周 5.807 km×77 周 (447.1km)

8 月 27 日 (土) 天候 : 晴れ / 路面 : ドライ

8 月 28 日 (日) 天候 : 晴れ / 路面 : ドライ

8 月 27 日 (土) 予選 Q1 : 阪口選手 2 位 / Q2 : 国本選手 4 位 /

公式予選 : GT500 クラス 4 位 (1:26.178)

今季は全 8 戦中 3 戦が 450km の長距離戦として
開催されるが、最後となる鈴鹿の予選が開催された。
19 号車は 4 連続ポールポジションがかかった予選を
制することができるか。

午前中の公式練習では GT500 占有走行の残り



WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTECH

Jms

OKAYO Express

DIESEL AID

FUJITSUBO EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会

WellVets
— Animal Welfare Group —

KDC
DENTAL CLINIC

GLOBAL
MURPHY CRYSTAL

本田鉄工株式会社

GOODYEAR
タイヤ・ダンロップ

RACING PROJECT
BANDOH

2分でのタイム合戦からの、トヨタ最上位の5位
(1'47.006)のタイムを出して終了した。

午後の予選は開始時刻が遅れ、天候も曇り空の中、
気温 31 度/路面温度 39 度/湿度 65%決して
状況が良くはないコンディションの中、予選が開始
される。

阪口選手がアタッカーとなる Q1。開始直後は 16
号車が、後ほど数台が出て行くものの、いつものように

早く出る事も無く、残り 8 分半をすぎたところで 19 号車がピットアウトしていった。

そのまま周回を重ね、残り 1 分を切るところでたった一度のアタックに入り、直前にトップを取った 16 号
車に 0.025 秒差の 2 位(1:45.244)を獲得し、Q1 を突破しました。

Q1 の結果は 16-19-23-38-17-24-100-39- (以上 Q1 通過) -3-8-37-36-64-14-12
Q2 のアタックは国本選手。いつもと違って Q2 開始直後にはどこも出てこず、残り 9 分で 39 号車、

そして 17 号車がコースインするが、各車続々とコース
インして行く中、順番としては遅く残り 6 分で 19 号
車がコースイン。2 週のウォームアップを挟み、一発の
アタックにでた 19 号車のタイムは 1:45.582 の暫定
3 位。全台のアタックが終了して、4 番手で Q2 を
終えることとなりました。

Q2 の結果は、1:45.169 を出した 23 号車が
ポールを獲得。以下 17-16-19-38-24-39-100

明日の決勝は 2 列目からのスタートとなります。表彰台の頂点に向けて爆走していきます。

皆様のご声援、宜しくお願いいたします。



予選コメント

【坂東監督】



『ちょっと考えすぎましたね。考え方が違うアプローチでしたらポールは出
てたと思います。ドライバーには完璧な車ではなくて申し訳ない。Q1 も
トップで通過できるポテンシャルがあったのにアジャスト出来ずドライバー
には申し訳ない。連続ポールは逃してしまったけど 4 番手からのスター
トで物凄く悔しい気持ちはチームが成長している証。明日は 3 台抜く
だけなのでチーム一丸となって戦います。』



【国本選手】



『Q1 から Q2 へ予選のアタックラップ、内圧などをアジャストして望みました。ちょっと合わせきれなかったのが最高のアタックではなかったですが決勝に向けて選んだタイヤなのでチーム一丸となって 450 k mを戦い、上位を狙って頑張ります。』

【阪口選手】



『4 番手でした。決勝の事を考えて持ち込んだタイヤだったので午前中の練習走行ではかなり感触は良かったです。予選に関しては Q1 が 2 番手で Q2 は 4 番手でした。路面は常に変わっていきました。全力を出し切った結果ですので明日は 4 番手から決勝に強い 19 号車をお見せしたいと思います。』

WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA
CLUTCH

MIE TOYOPET

RUTE

Jms

OKANO
Express

DIESEL AID

FUJITSUBO
EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会

WellNets
— Animal Welfare Group —

KBC
DENTAL CLINIC

GLOBAL
UNIVERSITY & CENTER FOR

本田鉄工株式会社

JOYWAY
タイヤカーテンショコ

RACING PROJECT
BANDOH

決勝 8月28日 GT500クラス 決勝結果 7位

朝から曇り空だった鈴鹿サーキットは、決勝が行われるあたりで雲が取れ、青空が見えてきた。

気温が28度、路面温度は39度、湿度が50%の中、鈴鹿サーキット60周年 特別デモン

『グループC ～夏の鈴鹿耐久決戦～』が行われ、往年のグループCカー6台のデモンが行われた。

午後1時から行われた20分間のウォームアップ走行では、満タンで車輛バランスの確認を行い、決勝を見据えたセッティングで9周周回し、タイムが1:51.060と11番手であった。

450km、77週のレースは2回の給油義務があり、一人のドライバーが2／3以上の周回を行う事が出来ない。今年3度目の長丁場のレースとはいえ、チーム戦略がレースを左右する事となるだろう。スタートドライバーは国本選手。4番手からのスタートとなる。

三重県警の白バイ、パトカー先導のパレードランからの2週のウォームアップからレースの火ぶたが切られた。先頭から大きな順位変動が起こらず、19号車はオープニングラップを4位のまま戻ってきた。後ろからは38号車が迫ってくる。5周目での順位は4位、前の16号車とは約2秒の差。19号車は後ろの38号車からの追撃を受け、後ろの間隔が狭まる中、13周目からの4位争いが激しくなり、15周目の1コーナーで外側から38号車に刺されると、一触即発の中、立ち上がりで38号車にパスされて5番手に後退する。

17周前後に1回目のピットに入るチームが多く出てくる中、17周目にトップの23号車がピットに入り、19号車は順位が一つあがる。26周目でトップから17秒差の4位のまま。27周目に3位走行の38号車がピットに入ったため、19号車は3位に。28周目に16号車がピットに入って2位に。28周目にピットに入り、ドライバー交代を含むフルサービスを行い、ピットアウト、暫定10位で復帰。29周目のアウトラップ中に3号車にパスされて暫定11位。だが、前の3号車に食らいついていく。





34 周目に全車が 1 回目のピットインを終了した段階で、19 号車の順位は 8 位。

3 号車との 7 位争いは激しさを増し、38 周目には、6 位の 14 号車に追いつき、三つ巴の 6 位争いへと化す。39 周目のヘアピンでアウトからのクロスラインで 3 号車をパスし 7 位に上がった。さらに、前の 14 号車への追撃を開始し、40 周目でパスして 6 位に上がった。



42 周目に前方の 23、8 号車が 2 回目のピットに入り、19 号車が 4 位に上がる。46 周目で 19 号車は 4 位で前とのタイム差は 20 秒となり単独走行となるが、前の 3 台のタイム差をどんどんと縮めていく。

48 周目に 3 位の 17 号車がピットインして 3 位に上がる。しかし、50 周目に 300 クラスの車両がクラッシュし、即座に SC が入ってしまった。55 周目に SC が解除され、直後に 38 号車がピットに入ったため 2 位にあがるが。次の周にピットに入り、暫定 10 位で復帰する。

61 周目に 38 号車がピットに入り、19 号車は 9 位に、前の 37 号車を追撃すると、66 周目に 37 号車をパスして 8 位に上がる。19 号車は残り 10 周となっても、前の 16 号車に追いつくべく爆走していく。途中 FCY が出るもレースに影響も出ず、ファイナルラップで前方を走っていた 100 号車がクラッシュした為、順位が一つ上がり、19 号車は 7 位でチェッカーを受けることとなりました。

レースは、最後尾スタートの 12 号車が、50 周目に入った SC のタイミングで 3 位まで上がると、17 号車とのトップ争いから残り 3 周でトップに出て、そのままチェッカー。2 位は終盤ペースダウンしたものの、後続を押さえた 17 号車が、3 位は SC とピット戦略を巧みにつけた 39 号車となりました。

以下 3-23-16-19-37-36-24-100-64-8-14-38

皆様の応援、誠にありがとうございました。

SC にやられてしまいました。

悔しいですが

必ず横浜タイヤと共に勝ちに行きますので菅生期待してください。

SUPERGT

<https://supergt.net/pages>

BANDO H

<http://www.bandohracing.com/>



決勝コメント

【坂東監督】



『悔しい一言。順調にレースを運んでいたのに残念です。表彰台を逃したレースでした。自分が運を引き寄せられなかったです。しかしレース中のタイヤの進化は証明できたと思います。アンダーカットか？オーバーカットか？4 番手を走っていた時にもっとターゲットを明確に作戦遂行していれば良かったかな？と思っています。7 位ですが追上げて 7 位なので次の菅生戦の勝利を目指して切り替えていきたいと思っています。沢山の応援ありがとうございました。』

【国本選手】



『50 周目の SC で組み立てて物が終わってしまいました。非常に残念です。しかし車とタイヤのパフォーマンス共に高かったので良いペースでレースを戦えたのは次戦以降に期待できます。足りないものも見てきたので、まずは次の菅生で結果を出します。沢山の応援ありがとうございました。』

【阪口選手】



『非常に残念な 7 位でした。タイヤのパフォーマンス、車のパフォーマンス、苦手な鈴鹿でトップ争いが出来るペースだったので非常に悔しいです。今回のレースで自信がついた部分が沢山あったので、今回は戦略面で何がダメだったのか分析して残り 3 戦、勝利に向かって頑張ります。沢山の応援ありがとうございました。』